

惜しむ声多数 節目を迎え苦渋の決断

金多豆蔵応援隊の会が
3月末で活動休止へ

津軽中里駅構内の駅ナカにぎわい空間で、気さくな雰囲気と津軽弁での接客が名物で、全国からの旅客たちにおもてなしをしてきた「金多豆蔵応援隊の会」(代表・松田喜久代)が、駅ナカにぎわい空間を拠点とした活動を令和2年3月末で休止することを決めました。惜しむ声が止まないようですが、節目の活動10年を迎え、平均年齢も70歳となったことで休止を決断しました。町無形民俗文化財の「金多豆蔵人形芝居」と継承者の木村巖さんを手助けしたいと始まった同団体は、約10年もの間、駅ナカにぎわい空間の運営をボランティアで行い、接客や運営などを手がけてきました。今本和子さんは「初めてのことばかり手がけてきたので、貴重な体験だった」と振り返ります。また、塚本鶴江さんは「出来ることを一生懸命にやってきた。とても楽しかった」と話します。野上貴美子さんも「楽しさがボランティアで続ける原動力だった」と同じ想いで取り組んで来たそうです。三上輝子さんは、「にぎわい空間」という名に触れながら「みんなが集まれる場所になったことはよかった」と目を細めます。代表の松田喜久代さんは「あつという間の10年だった。たくさんの人の協力があってやってこられた」と感謝の気持ちを述べました。

4月からの駅ナカにぎわい空間の管理運営者は、広報なかどまり2月号で募集したとおり、3月中旬に会議・審査を経て決定する予定です。



同会が始めた販売コーナー



並ぶ惣菜は会員の手作り

世界有数の辛さ「ジョロキア」で激辛の町!

中里高校SBPが
青森市でPR



中里高校SBPが2月8日(土)・9日(日)、青森県観光物産館(青森市)で行われた「なかどまりイガ米～来てけフェア」でブース出店し、「メバ焼き!」の販売出店と激辛調味料の試食・アンケート調査を行いました。

この激辛調味料は、かつて世界一の辛さを誇った唐辛子「ジョロキア」を町内で栽培する業者がいることに着眼して、中里高校SBPが激辛料理で地域の活性化を図ろうと行っている事業です。

昨年の町民文化祭では特製の調味料やレシピを用いて、来場者が試食・投票する激辛料理グランプリを開催しました。

今回のイベントでは、特製調味料の試食とアンケート調査を行い、今後予定されている町内店舗提供へ向けた調査を行いました。

中里高校SBPが手がける地域食材を使ったこの事業は、一般財団法人自治総合センターが実施するコミュニティ助成事業を活用して、料理開発にかかる諸費用などを宝くじの助成金で実施しています。

